ボローニャ・プロセス

The Economist 過去記事5本をもとにしたまとめ

2007 年 5 月 22 日

OFIAS リエゾン・オフィサー 新井早苗

ヨーロッパ大陸の大学の現状

- 国の力が強い。国が資金を供給、管理。政治的任命や口出し多し。
- 国がスポンサーのため、資金の増額なしにより多くの学生を受け入れるよう圧力（対して米国大学は国だけでなくさまざまな財源を持つ（国、慈善家、民間企業、学生。））
- 国が資金源だが、GDP の 1.1%しか出していない（米国は 2.7%）
- 第1学位の取得に通常5～6年かかる（納税者にとって負担、学生にとっては時間がかかりすぎる）
- 国ごとにシステムがばらばら（英：学士3年、修士2年；仏：grande école では予備課程の2年を含め5年間、スイス第1学位課程は4年とされているがしばしば6年かかる）
- 無料、もしくはそれに近い状態で価値ある学位を授与するため、消費者圧力を逃れがち。「伝統」や「国家の誇り」、「言語」などにより競争にさらされていない（補助金、合法的モノポリー）。
- 第二次大戦後米国に劣っていく傾向：米国は世界のトップ20大学中、17大学（The Shanghai Jiao Tong University ランク）、ノーベル賞受賞者は 70%、世界の科学技術論文生産の 30%、最も引用された論文の 44%。途上国もヨーロッパより米国の大学に目を向けている。
- 米国大学だけでなく、アジアの大学もヨーロッパの大学にとり脅威（「知識の島」を目指すシンガポール、工科大学に力を入れるインド、エリート大学に資源をつぎ込み大学生数を2倍にした中国）

世界の大学をとりまくトレンド

- 1. 高等教育の大衆化「massification」。OECD 諸国で高等教育を受けた大人の数 1975 年から 2000 年の間に 22%から 41%に。途上国にもこの傾向が広まっている（中国、インド）。
- 2. 知識経済の台頭
- 3. グローバリゼーション：OECD 諸国からの留学生数は 1985 年～2005 年の 20 年間の間に倍になった。より多くの国が高等教育の輸出産業化を目指している。
- 4. 競争の激化

ボローニャ・プロセス

- 「知識経済の創出をめざす。」EU は民間ビジネスにおいては市場競争を促進したが、教育政策に関しては影響力がなかった。欧州委員会が知識に基づいた欧州経済を創り出そうとイニシアティブを取った。
- 背景：ヨーロッパの現在の生活水準を保持するには、競争相手国より多い時間を安い賃金で働くのではなく、より賢く働く必要がある、そしてそれには現在の米国に劣る高等教育は改善されなければならないとの認識。。
- 1999 年に署名（初期メンバー）、2010 年までに完了予定。
- 国を越えての課程の比較を容易にし（透明性）、移動性を高める。大学間の競争を促進する。
- 法的な効力はない。
- EU を越え、45ヶ国が署名（例：ノルウェイ、アゼルバイジャン）
- 欧州各国で異なる学位を大々的に整理整頓
- 内容：3部分（3～4年の学士、修士、博士）からなる国際的（アングロサクソン型）教育システムを採用。学士3年、修士2年。成績評価方法の統一（単位交換促進）。
- 通常5～6年取得に時間のかかる大陸タイプの第1学位がなくなる。授業料値上げをしたくない欧州大陸政府は短期間で学位がとれるようになるのを「節約」として歓迎。

- わかりやすくなるのでヨーロッパの大学は留学生にとって魅力が増す。
- 高い透明性（コースの比較が容易になる）により、学生が自分の受ける教育に対し高い質を求めるようになるだろう。

各国の状況・ボローニャに対応するにあたって問題となる点

スウェーデン：成績評価システムを現行の２段階（合格、不合格）を、ヨーロッパ基準（優（A）～不可（Fail））に合わせないといけないが、後者は学生の受ける心理的ダメージが大きく社会不安が生じるのではないか。

英国：

- ボローニャは、学生達成度が講義や演習に費やした時間で計られるという大陸的な考え方に基づいていると不満。「重要なのは何時間勉強したかではなくて何を学んだか。」「大陸では英国の１年修士課程を容易すぎるとよく言うが、実際には非常に厳しい課程であり、それが留学生をひきつけている。」としてボローニャに脅威を感じている。
- もともとヨーロッパ的な質の低下の問題はあまりない。上海リストのトップ１９大学のうち英国のケンブリッジは第3位、オックスフォードは第8位。OECD 中でも高い学生卒業率。
- 1980 年代のサッチャーの政策による長期的な効果。授業料徴収の自由を得た。民間企業や卒業生から金を得ることも学んでいる。
- しかしながら国の干渉に悩まされているし（「academic auditor」的な官僚）、財政も圧迫されている。

ギリシャ：私立大学認証案を否決したところ

フランス：公立大学への競争的入学試験が未だタブー。

フィンランド：「修士号保持者が激増し、量が質を凌駕してしまうのではないか」

その他ネガティブな影響

- 学位取得にかかる時間が短縮されることにより、授業時間も減り、ひいては大学教員の必要数が減るのではないか。

ヨーロッパのビジネススクールへの影響

- 学士取得にかかる時間が短縮されれば、MBA の人気が増すのではないか。
- ボローニャの結果として、プログラムの数が 12,000 程度増加するのではないか。
- ビジネス学位取得者も数千増え、プログラム間の競争が増し、学生の移動性が高まると予想
- 但し、アングロサクソン型システムを採用すると、ヨーロッパの学生が米国に流れるのではないか。米国の大大学がヨーロッパにサテライト・キャンパスを設置するのではないか。

Sources:

“Bologna makes for a meatier degree,” The Economist 2005 年 2 月 14 日
“The brains business,” 2005 年 9 月 8 日
“Head in the clouds,” 同
“How Europe fails its young,” 同
“Winning by degrees,” 2007 年 5 月 3 日